

形成工法(熱形成タイプ)の施工管理に関するマニュアル

《 共通項目 》

1. 工法概要

各工法別マニュアルに記載。

2. 適用範囲

各工法別マニュアルに記載。

3. 使用材料の物性

各工法別マニュアルに記載。

4. 施工前現場実測

各工法とも、以下の内容は共通とする。

更生材料発注の前に、当該現場の実態を把握するべく各種実測を行う。

更生材料の誤発注を防ぐために、既設管径、管体延長等を実測するとともに、現場施工時に問題となりそうな点について検討を行う。

施工前現場実測	実施内容および留意点
①既設管径の実測	
②管体延長の実測	地上でマンホールの芯々間を実測し、マンホール寸法分を除く。
③マンホールの形状寸法確認	上、下流マンホールの径、深さ、インバート形状、流入管管径、その他施工時に支障となりそうな要因が無いかどうかの確認。
④その他、現場周辺の状況を確認し、工事車両の配置等の検討を行う。	

5. 施工前管きょ内調査

各工法とも、以下の内容は共通とする。

施工前管きょ内調査	実施内容および留意点
①取付け管位置の計測	管口から取付け管芯までの距離を TV カメラの走行距離等により実測し、本管への接続角度は TV カメラの直視画像により記録する。
②段差、管ズレ、屈曲等の確認	施工適用範囲内であることを確認。管きょ内調査等の結果、適用範囲外である場合は施工方法を検討する。 適用範囲・・・建設技術審査証明の証明範囲（および最新仕様）による。
③事前処理工の検討	事前処理を行う必要のある、モルタルの堆積、取付け管の突出、鉄筋の突出およ

び多量の浸入水等の有無を確認し、それらが認められた場合は事前処理方法等の検討を行う。

6. 事前処理工

各工法別マニュアルに記載。

7. 施工前管きょ内洗浄工

各工法とも、以下の内容は共通とする。

更生工の直前に管きょ内の洗浄を充分に行い、出来形に悪影響を及ぼす可能性の有る土砂、小石、管壁破損片等を完全に除去する。

洗浄後に TV カメラまたは目視にて、管きょ内が充分に洗浄されているかどうかの確認を行い、管きょ内に施工に支障を来しそうな異物が残留している場合は、再度管きょ内洗浄を行う。

8. 更生材料の引き込み工

各工法別マニュアルに記載。

9. 加熱工

各工法別マニュアルに記載。

10. 拡径・冷却工

各工法別マニュアルに記載。

11. 性能確認試験用テストピース採取

各工法別マニュアルに記載。

12. 出来形管理

各工法とも、以下の内容は共通とする。

外観検査および出来形検査を行い、管きよの機能を損なうような欠陥、異常個所が無いことを確認する。

(1) 外観検査

①TV カメラにより、更生管内の外観確認を行って、ビデオテープ等に記録する。

②マンホール管口の仕上がり状況を確認し、写真記録を撮る。

(2) 出来形検査

①更生管厚さ計測

上下流マンホール内管口を実測し、記録する。

測定箇所〔30° 90° 150° 210° 270° 330°〕

6箇所の平均管厚が呼び厚さ以上で、なおかつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。

ただし、人孔内に管口を突き出させて仕上げる場合には管口の外径が既設管内径よりも大きくなり、管厚が小さくなってしまうため、施工前の既設管の内径と施工後の更生管の内径差により管厚を算出することにより、管厚の測定値とする。

